



泌尿器科からのお知らせ

成人の尿膜管遺残に対する腹腔鏡手術を開始しました

平素は、博慈会記念総合病院に格別のご愛顧を賜り誠にありがとうございます。当院では成人の尿膜管遺残に対する腹腔鏡手術を開始しました。

尿膜管遺残とは

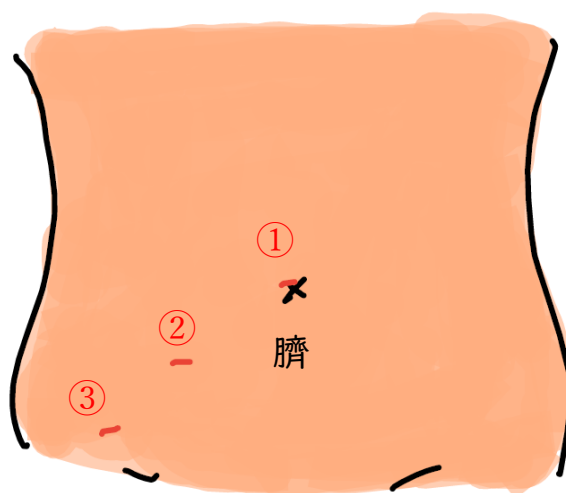
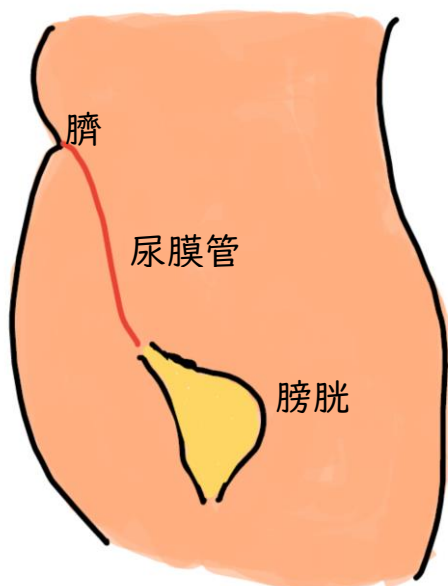
胎生期に存在するおへそと膀胱をつなぐ管を尿膜管といい、本来は退化して消失しますが出生後以降も残存した状態を指します。

尿膜管遺残の症状について

膀胱と交通がある場合は臍から滲出液（＝尿）が出ることがあります。また、尿膜管遺残は感染症の原因となることがあり、感染を起こした場合、発熱、腹痛、臍から膿が出るなどの症状があります。膀胱炎を起こせば血尿・排尿時痛を伴いますが無症状で血尿がある場合は膀胱に癌が発生している可能性もあります。

治療法

感染を起こしている場合、まずは抗生剤による治療と切開して排膿をすることがあります。繰り返し感染を起こす場合、手術を行います。当院では下図の3か所の小さい傷で腹腔鏡による手術を行います。



<合併症について>

- ・発熱、感染症：手術した部位での感染や肺炎、尿路感染を引き起こすことがあります。手術当日より抗生剤を使用して予防に努めます。
 - ・出血：尿膜管に対する腹腔鏡手術では出血したとしても少量で済むことがほとんどです。出血量が多い場合には輸血する可能性があります。
 - ・血栓症：長時間動かない状態していると下肢の静脈に血栓ができ、それが肺の血管へと飛散するとしばしば重篤になることがあります。血栓症予防のために弾性ストッキングの着用など必要な予防措置を取ります。
 - ・周囲臓器損傷：腸、膀胱、血管など周囲臓器を損傷した場合は開腹にて外科的修復を行うことがあります。発生頻度は稀です。
 - ・膀胱外への尿流出：膀胱の一部まで摘出する場合、膀胱の縫合が必要になりますが縫合不全を起こした場合、腹腔内へ尿が流出します。再手術にて外科的修復が必要となります。
- 腸閉塞：術後一時的な腸管麻痺によるものや、術後時間経過してから起こる癒着によるものなどがあります。原因次第では外科的処置が必要となる場合があります。
- また、一般的な腹腔鏡手術では術中に使用する二酸化炭素による影響で皮下気腫、肩の痛み、高炭酸ガス血症があります。
- その他、臍を含めたポートサイトヘルニアという手術の器具を入れるための傷に腸管が入り込む合併症があります。

手術担当医の紹介



善山 徳俊（よしやま やすとし）

平成21年東京慈恵会医科大学卒業

日本泌尿器科学会指導医・専門医

日本女性骨盤底医学会所属

日本排尿機能学会所属

※善山医師の外来は月・木曜日午前になります
(受付時間は8時30分から11時30分です)